



# 日本の気象の特徴(秋～冬)

◎

熱帯低気圧のうち、中心付近の最大風速が 17.2m / s 以上になったもの。

フィリピン沖合など、 で  の海上で発生する。

水蒸気が凝結するときの  がエネルギー源である。

中心の雲のない領域を、台風の  という。

等圧線は  で、前線が  。

大雨や強風、 ・高波、竜巻などの  被害を出すこともある。

雲が空を  
おおい、 が  
降る。



◎秋

残暑が過ぎると  の影響で雨になることが多い。

その後は  と低気圧が交互に通過。

はじめはぐずつき

その後は  天



◎冬

気団が発達する。

の季節風がふき、気圧配置は  (冬型の気圧配置)となる。

日本海側は  になる。

太平洋側は  した  天になる。

大雪は交通網などに被害をもたらすが、雪解け水は貴重な  になる。

日本海側と  
太平洋側で  
天候が異なる

◎身近な気象に関することば

: 立春から春分の間、強くふく、あたたかい南風。冬から春への季節の境の代名詞にもなる。

: 晩秋から初冬にかけてふく、強い北風のこと。

地球温暖化の影響で、予想を超える干ばつや洪水の被害が世界的に発生している。国連はこの対策の1つと

して、『持続可能な開発目標()』を示し、具体的な 17 の目標を発表した。